

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000523		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	ふれあい朝里 1階		
所在地	小樽市新光1丁目2番20号		
自己評価作成日	平成28年11月4日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0172000523-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアが広く、開放的で皆さん自由にゆっくり生活されています。食事は旬のものを取り入れたり、入居者さんのリクエストに柔軟に対応でき、家庭的であたたかいものを提供しています。定期的に行事を行い、ボランティアや地域との交流も行っています。ご家族との関わりを大切にし、家族会や季節ごとの行事などにご参加頂き、様々な意見を頂戴しています。スタッフは委員会や研修を行い、サービスの向上に努めています。ホーム専従の看護師がおり、日々の様子や変化等に柔軟に対応でき、夜間はオンコール体制で緊急時の備えが来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市朝里地区にあり、国道5号線のバス停から近く、病院や飲食店も複数ある便利な場所に位置する3階建て3ユニットのグループホームです。建物内は広く開放的で、居間や食堂を中心に全体が見渡しやすい間取りです。利用者と一緒に作った貼り絵などを飾り、家庭的な雰囲気となっています。職員は笑顔でやさしく利用者に接しており、会話も活発です。利用者と職員、職員同士の関係も良好です。職員は事業所の理念をよく理解し、委員会活動に積極的に関わったり、ミーティングで活発に意見を述べています。地域からも、楽器演奏や踊りのボランティア、園児などの訪問を受け、地域の飲食店へも食事に出かけています。利用者の家族とは、運営推進会議に多数の参加を得ています。毎月発行する事業所全体の様子を伝える便りや個人ごとの健康や暮らしぶりを伝える便りにより、きめ細かい情報提供を行っています。ケアマネジメントの面では、各種の書式を整え、手順に従って基本情報や課題分析シート、介護計画、カンファレンス記録、個別日報などを分かり易く作成しています。災害対策の面では、自主避難訓練を毎月行い、夜間対応や地震想定訓練も組み込んでいます。また、年2回の総合避難訓練も実施し消防や近隣との協力関係も築いています。食事や入浴の面でも、希望に沿って総合的に支援しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の目立つ所や職員デスクの壁に理念を提示している。職員は名札の中に理念を書いた紙を入れて常に持ち歩き確認出来るようにしている。	事業所独自の理念・方針・モットーを掲げ、理念の中で「地域における認知症ケアのキーステーション」「地域の一員として地域の中で暮らす」と示し、地域との関わり方を現しています。職員は理念を名札と一緒に携帯し、実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域活動のメンバーになりイベントや会議に参加し地域の一員として交流を図っている。	職員が町内会の総会や、複数の町内会で行う行事に参加しています。楽器演奏や踊りのボランティアの訪問も頻繁にあり、年に3～4回は幼稚園児の訪問も受けています。利用者と一緒に地域の飲食店で食事をする機会を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している便りに認知症についてのコラムを掲載し、いつでも読んで頂けるよう玄関の壁に貼っている。運営推進会議時にも地域の方の参加を仰ぎ情報発信をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、保健所、地域の方など外部の方に出席して頂き報告、話し合いをしている。出された意見はミーティングや申し送り時に話し合いサービス向上に活かしている。	運営推進会議を年4回開催しています。市や地域包括支援センター職員、多数の家族、地域住民の参加を得て、地域活動や防災、感染症対策、外部評価などをテーマに話し合っています。議事録を全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いた時に伝えたり、時には電話で状況を伝え相談にのって頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの参加を得て情報提供を受けるほか、管理者が認知症サポーター連絡協議会の役員として市の事業に協力しています。平成27年には市に相談しながら医療連携加算の申請を行いました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け社内研修をしている。ミーティングや申し送り時や必要な状況時には都度、話し合い理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	具体的な禁止事項を記したマニュアルがあり、職員へは会議等で随時禁止事項を伝えていきます。玄関は夜間のみ施錠し、日中は利用者でも中から開けられる自動ドアのため自由に出入りが出来ます。ユニットの出入り口に鈴をつけ、出入りが分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり社内研修を行い学ぶ機会を設けている。日々のケアで気になる事があれば間をおかず話し合い対応し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を設けている。又、成年後見制度を利用されている方がおり常日頃より後見センターと連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を活用しながら十分な説明を行い不安や疑問の解消に努め納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会を定期的に行い意見や要望を発信して頂いている。普段の来訪時にもこちらから声を掛け気軽にお話しして頂ける雰囲気作りをし、色々な意見を伺い運営に反映させるようにしている。	家族の来訪時に得られた意見をフロア日誌で共有しています。また、毎月、事業所便りと利用者ごとの便りを作成し、家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で日常的に意見や提案が発信しやすいようにし、ミーティングや申し送り時に話し合い反映させるようにしている。	月1回のフロアミーティングで活発な意見交換が行われています。年2回は職員個々の自己評価に沿って管理者との面談が行われています。また、職員は事故防止や防災、レクリエーションのいずれかの委員会に所属し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の有給、資格手当、交代で長期休暇を取る等している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を定期的実施し学ぶ機会を設けている。グループホーム協議会や外部の研修に交代で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会の研修参加や相互訪問を通じ同業者と交流を図りサービス向上に活かす取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず面談を行い、話しやすい雰囲気作りに努め困っていることや要望を把握し、安心して入居して頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い困っている事や要望を伺い信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通じ必要としているサービスを見極めるようにしている。必要に応じて他のサービスを勧めたり相談に乗ったりしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや掃除など出来る事、得意な事を見極め職員と一緒にいたり、お手伝いして頂いたりしながら日常を共に過ごす関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に本人も交えてお話ししたり、毎月のお手紙で様子を伝えたりし情報を共有しながら共に支えていく関係作りをしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方にはいつでも自由に来訪して頂いている。入居後も長年通い慣れた美容室を利用されている方もいる。	半数ほどの利用者に対して友人や知人が来訪しています。近くの美容室が馴染みの店になっている利用者もいます。外出行事では水族館や市内の博物館に出掛けたり、工場見学を行い、利用者が懐かしさを感じられるようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしの関係を念頭に置き、食事の席を工夫したり、お互いの会話や関わりがスムーズになるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いに行ったり、御家族から連絡があったり偶然お会いした時は、近況を伺ったりし必要に応じて相談にのったり支援できるよう努めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や態度、動作などから本人の思いを把握するよう努めている。本人本位に出来るようミーティング時などに検討することもある。	4割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい利用者の場合も表情や仕草の変化から把握しています。利用者ごとの基本情報を整備し、3か月毎に課題分析シートを更新し、個々の状況を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談やフェイスシートの活用で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時や日常の職員同士の会話を通じ把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の来訪時には出来るだけ意見や要望を伺うようにし、毎月のミーティングでは1人1人のカンファレンスで意見交換し介護計画に活かすようにしている。	介護計画を3ヵ月毎に更新しています。モニタリング総括表や課題分析抽出シートを参考にカンファレンスで職員の意見を集約し、次の計画を作成しています。日々の個別日報は計画目標に沿った記入が行われ、計画目標に関する特記事項はフロア日誌にも記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録を記入している、その際ケアプランに沿ったものと特記事項に分けて記録している。情報共有のため職員は必ず目を通し実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや家族の状況の把握に努め、出来る限りその時のニーズに対応している。時に地域包括に相談するなど柔軟な支援ができるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りへの参加、地域の幼稚園児の来訪などを通じ心豊かに楽しく暮らして頂くことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り本人、家族の意向に添い納得し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	8割以上の利用者は協力医による往診を受け、その他の通院は状況に応じて家族または事業所で送迎しています。受診内容を利用者ごとの「通院・往診の記録表」に記載し、把握しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気がかりな事や気付きはすぐに伝え相談し適切な受診へとつながるよう支援している。夜間はオンコール体制をとりいつでも相談できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は詳しい情報を病院に必ず伝えその後も出来る限りこまめに連絡を取っている。お見舞いの際にも情報交換や相談をしながら早期の退院に向け支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	出来る限り早い段階でご家族、主治医と話し合う場を設けホームとして出来る事を説明し理解、納得して頂いたうえで方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、同意書を得ています。過去に1名の看取りを経験し、今後も家族の協力等、条件が整えば看取りを行う方針としています。	今後の看取り支援に対応できるよう、終末期ケアや看取りに関する内部研修や外部研修の受講を進めることを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルをすぐ確認できる所に貼っている。職員は救命講習を受けている。又、消防と協力し救急処置訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回地域住民と消防の協力を頂き避難訓練を実施している。毎月第一日曜には夜間を想定した避難訓練を実施している。	避難訓練を毎月行い、年2回は消防署も参加する総合訓練としています。総合訓練では消防や住民、近隣施設の協力を得たり、夜間対応や地震想定訓練も組み込んでいます。職員の救急救命訓練の受講も順次進め、災害時に必要な備蓄品も用意しています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、気になる言葉かけがあった時は都度、話あったり、お互いに注意し合っている。言葉かけについての社内研修を行っている。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、職員の言葉遣いや対応で気になる点をその都度指導しています。また、内部研修で接遇や言葉遣い等を学んでいます。ファイル類は安全に管理し、申し送りの際は利用者に聞こえないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のちょっとした会話や表情、動作などから思いをくみ取るように気を配っている。今日、着たい服を決めたり、やりたいことを自分で決めることが出来るような言葉かけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	それぞれのペースに合わせるよう努め言葉や、その日の雰囲気などから希望をくみ取るようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が好まれる理美容を利用していただいている。起床時や外出時には整容のお手伝いをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来ることを見極めながらメニューの相談をしたり、野菜の皮むき、食器拭き等のお手伝いをしていただいている。職員も必ず同じテーブルで会話をしながら食事を摂っている。	利用者の希望を聞きながらユニットごとに献立を立て、栄養士のチェックも受けています。彩りの良い美味しい食事が提供され、職員も利用者とは会話をしながら食事を取っています。野菜切りや炒めもの、後片付けなどを利用者が手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ必要量を摂って頂けるようこまめに声掛けしたり、好きな飲み物を出したり、好みの食べ物は少し多めに盛り付けしたり、食べやすい形態にしたりとその方の状態や習慣に応じた支援が出来るよう色々工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前はその方の出来ない事を支援しながら清潔保持に努めている。必要に応じて日中もやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの場所を間違えないよう目印を付けたり、排泄のパターンを把握しながら時間をみて声掛け、誘導することでオムツの使用を減らしトイレで排泄できるよう支援している。	3割ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、誘導や介助が必要な方は個別日報に排泄状況を記録しています。誘導時は直接的な表現を避けるなど羞恥心に配慮しています。日中夜間ともほとんどの利用者がトイレで排泄しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1人1人の排便状況を記録し必要に応じて服薬調整したり水分を多めに摂って頂いたりしている。毎日ラジオ体操、転倒予防体操をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体の負担にならないよう体調を見ながら1人1人が気持ちよく入浴できるよう支援している。	ほぼ毎日入浴することが可能で、概ね午後の時間帯で各利用者が週2～3回程度入浴しています。入浴拒否のある利用者は翌日に変更したり声掛けの工夫で入浴に繋げています。入浴の長さやお湯の量など、個々の希望に合わせています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や習慣を考慮し日中でも入床の声掛けや支援をしている。夜も本人の意向を確認しながら支援している。習慣で遅くまでテレビを見てから入床される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を入居者ごとにまとめ、すぐ確認できるようにしている。服薬マニュアルに添い袋にも日付け、錠数を記入し服薬チェック表と照らし合わせながら間違いなく服薬できるよう支援している。顔色や食欲などに気を配り変化を見逃さないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りが出るよう毎日お手伝いをお願いしたり、編み物や塗り絵など好まれることをして気分転換を図ることが出来るよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によってお散歩をしたり畑に行ったりしている。本人が望む場所へ行けるよう必要に応じて家族に連絡し協力を仰いでいる。	暖かい時期は事業所周辺を散歩したり、畑や花壇を見に行っています。レクリエーションの委員会が行事を企画し、神社への参拝や、近所のそば店、ホテルでの外食などを行っています。しかし職員の入れ替わりがあり、以前に比べ外出の機会が減っています。	委員会を中心に利用者の希望を聞きながら計画的に外出行事を企画し、利用者が楽しめる外出機会が増えるよう、取り組みを期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと希望される方には、職員がお財布を入れる専用の袋を作ったりして自身で持つことが出来るよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から申し出があった時はいつでも連絡できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせた飾りや季節に合わせた絵を飾ったりしている。毎日、3度、時間を決め温度、湿度をチェックし心地よく過ごして頂けるようにしている。	共用空間は広く開放的で、居間や食堂を中心に全体が見渡ししやすい配置となっています。利用者と一緒に作った貼り絵などを飾り、家庭的な雰囲気です。車いす用のトイレや広い浴室、エレベーターがあります。温度や湿度、明るさも調整されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて好きな時にテレビを見たり気の合う方とお話をしたり出来るよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出のある物などを持って来ていただき居心地よく暮らせるよう支援している。仏壇を持って来られている方もいる。	居室入り口にのれんと飾り窓があり、部屋が認識しやすくなっています。室内には備え付けのキャビネットの他、馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。家族の写真やカレンダーなども自由に飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の戸には貼り紙をしたり居室入り口の飾り棚にはなじみの物を飾って頂き分かりやすいよう工夫をしている。建物内部はバリアフリーにしフロアー内やトイレ、浴室には手すりを設け安全に生活できるようにしている。			